

川柳による歯科のイメージ調査

○森岡敦¹⁾、文元基宝¹⁾、川又俊介¹⁾

1) NPO 法人関西ウェルビーイングクラブ

【背景】川柳は季語や切れの制限が無く、「とっかかりやすい」という点から、作成しやすく、親しみやすいという特徴を備えている。また、その内容から時代背景や世相を読み取ることができる。

【目的】歯や口は、人々にとって消化器官としてだけでなく、社会的、文化的に機能する臓器である。我々医療者はムシ歯、歯周病の予防、治療に専念するが、患者にとっては歯の健康感や歯や口の価値は多様である。生活者が歯や口に対してどのようなイメージを持っているのかを知ることは、医療者にとっても重要な点である。本発表では川柳を通して生活者の歯や口に対するイメージを調査する。

【方法】2011年1月末～3月末にかけて森岡歯科医院で歯に関する川柳を募集した。募集方法はインターネットと診療室での呼びかけによった。18人から川柳65作が投稿された。それらを医療関係者4名で分析した。

表1 投稿者の属性

		人数	割合
性別	男性	11人	61.1%
	女性	7人	38.8%
年齢	40-50歳代	8人	44.4%
	60歳代	6人	33.3%
	70歳以上	4人	22.2%

【結果および考察】投稿者の傾向は年代としては中高年が多く、女性より男性が多かった(表1)。インターネットによる投稿は39

作あり、関東地方からの投稿が多数を占めた。

分析の結果、分析者はQOL、Well-Being、健康問題、社会性、ライフスタイルにカテゴリ化した(図1)。健康問題に関する川柳は少なく、QOL、Well-Beingに関連しているものが多く見られた。

以上のことから、投稿者の歯や口に対するイメージは健康問題そのものではなく、その人の生活に関連していることが示唆された。

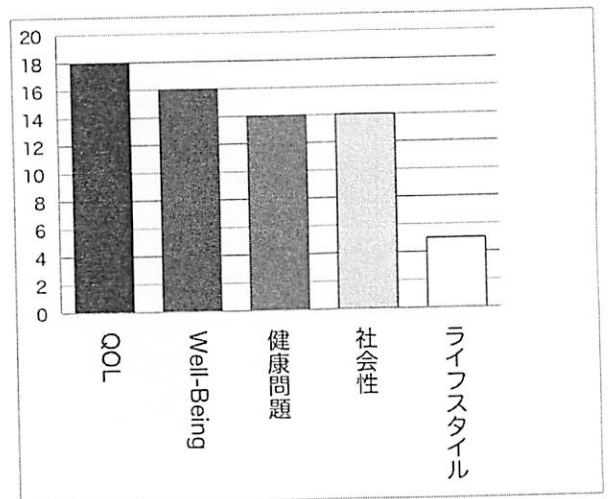


図1 カテゴリ化した項目と度数

【論点】川柳による健康教育への可能性について話し合いたい。

健康教育実践者の方の参加をお待ちしております。川柳をお持ちしますので、皆で解釈してみましょう。

連絡先) 森岡敦

NPO 法人関西ウェルビーイングクラブ
〒536-0012 大阪市城東区蒲生 1-1-15
am88@occn.zaq.ne.jp